

ハチ刺されによる救急統計について

夏から秋にかけてハチ刺されによる救急事案が多発します。

ハチ刺されは、ハチが持つ毒に対するアレルギーがある場合、アナフィラキシーショックを発症し意識障害や心停止に至るなどの恐れもあり、過去には死亡事例も発生しています。

これからの時季、ハチ刺されによる救急事案の予防を図るため、以下のとおり過去5年間の救急統計をとりまとめましたのでお知らせします。

※ 統計は、郡山地方広域消防組合管内の2021年から2025年までににおけるハチ刺されによる救急搬送人員の内訳。

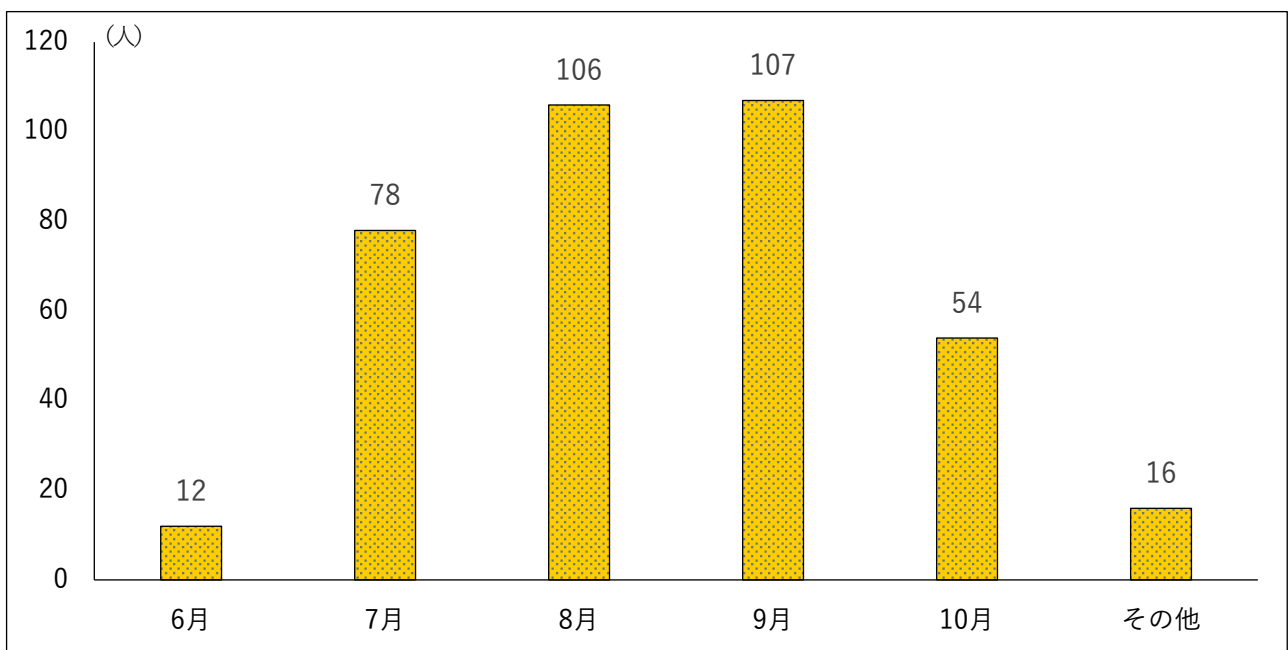
※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値。

■ 月別の救急搬送人員

郡山地方広域消防組合管内では過去5年間（2021年から2025年まで）に、ハチ刺されにより373人が救急搬送されています。

6月ごろからハチ刺されによる救急搬送が増加し始め、7月に急増し、6月から10月までの間に年間の95.7%にあたる357人が救急搬送されています。

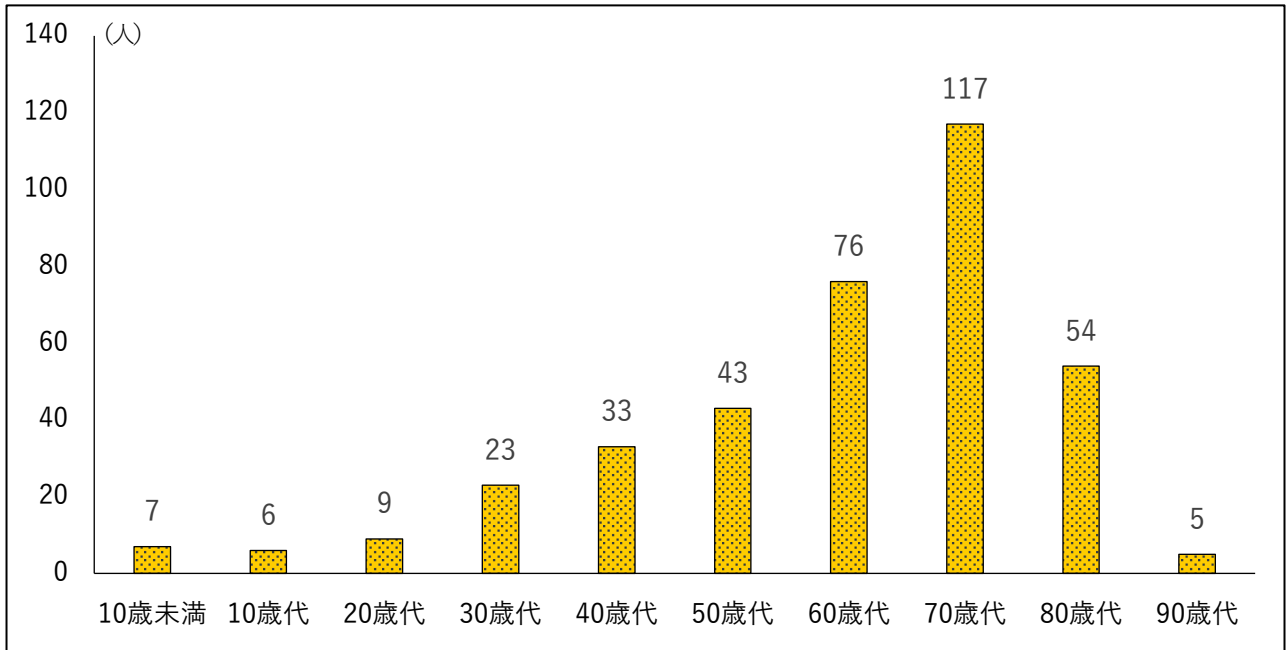
救急搬送人員を月別にみると、9月が最も多く107人（28.7%）、次いで8月に106人（28.4%）となっています。



■ 年代別の救急搬送人員

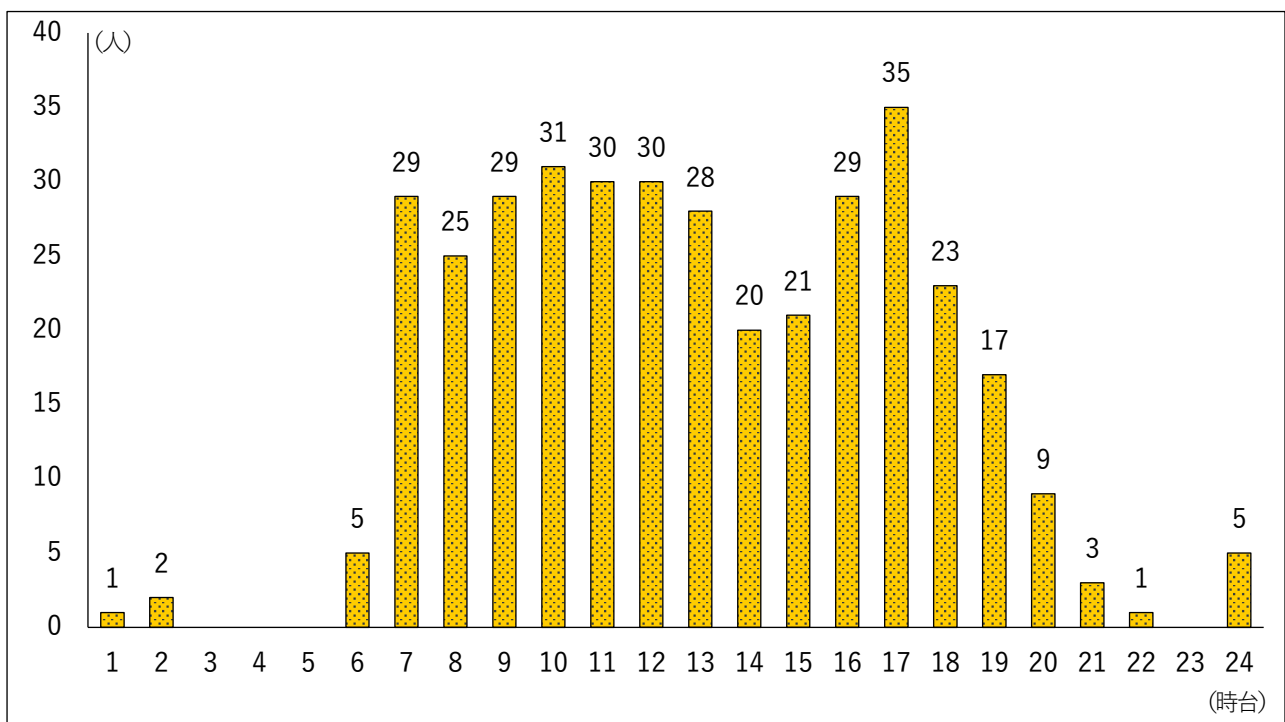
年代別にみると、70歳代が117人（31.4%）で最も多く、次いで60歳代76人（20.4%）、80歳代54人（14.5%）と続きます。

60歳代以上の救急搬送人員の合計は252人（67.6%）で全体の6割以上を占めています。



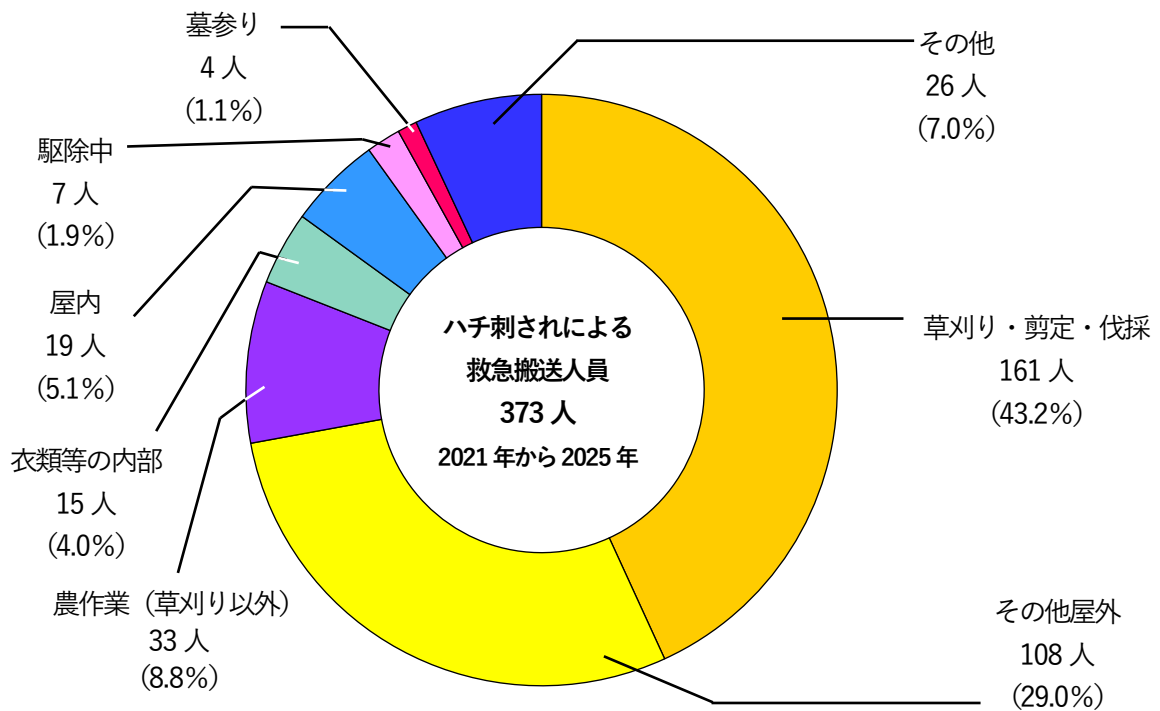
■ 時間帯別の救急搬送人員

時間帯別にみると、17時台がもっとも多く35人（9.4%）、次いで10時台が31人（8.3%）、11時台と12時台が30人（8.0%）と続きます。



■ ハチに刺された時の状況別の救急搬送人員

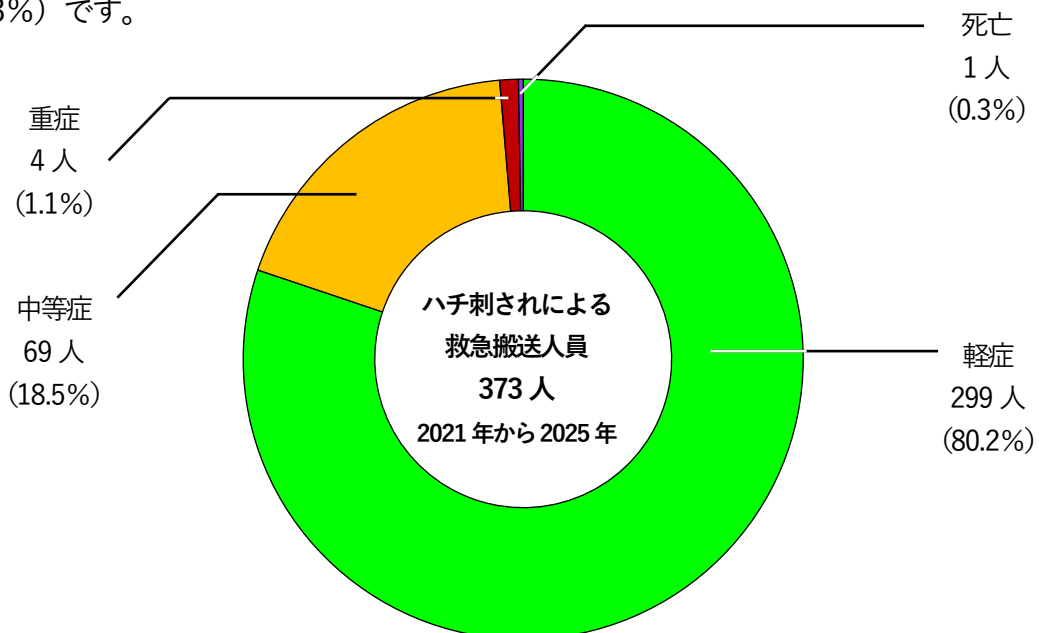
状況別に救急搬送人員をみると、「草刈り・剪定・伐採」が最も多く161人(43.2%)、次いで「その他屋外」が108人(29.0%)、「農作業(草刈り以外)」が33人(8.8%)、「衣類等の内部」が15人(4.0%)、「屋内」が19人(5.1%)となっています。



■ 初診時の傷病程度別の救急搬送人員

初診時の傷病程度別にみると、「軽症」が299人(80.2%)、「中等症」が69人(18.5%)、「重症」が4人(1.1%)、「死亡」が1人(0.3%)となっています。

初診時にアナフィラキシーショックと診断されたのは70人(救急搬送人員全体の18.8%)で、その内訳は軽症19人(27.1%)、中等症46人(65.7%)、重症4人(5.7%)、死亡1人(1.43%)です。



■ ハチに刺されないために

- ・ 草刈りや畑仕事、屋外活動、野山などに出かける際は、なるべく長袖、長ズボン、帽子を着用しましょう。
- ・ ハチは大きな音や振動などの刺激を受けることで、興奮して攻撃性を増すとされています。草刈り機や発電機等の使用時は十分注意しましょう。
- ・ ハチを見かけた場合は、決して手で払ったり駆け出したりせず、ゆっくりとその場を離れましょう。
- ・ ハチの巣の駆除中に刺される事例もあることから、必ず専門業者に相談しましょう。
- ・ 洗濯物や衣類などに紛れ込みハチに刺される場合があります。洗濯物を取り込む際などは十分注意しましょう。
- ・ ハチが屋内や車内に侵入してきた時は、窓を開けて静かに外に出ていくのを待ちましょう。

■ ハチに刺された場合の処置

- ・ ハチに刺された場合は、まず傷口を流水でよく洗い流し、その後は安静にして様子を見ましょう。
- ・ 息苦しさや口の渇き、冷や汗、めまい、じんましん、嘔吐、しびれ、血圧低下などの症状が現れた場合は、速やかに病院で診察を受けるか 119 番通報しましょう。
- ・ エピペンを処方されている場合は、使用期限を確認するとともに常に携帯し、あらかじめ医師に説明を受けたとおりに使用しましょう。